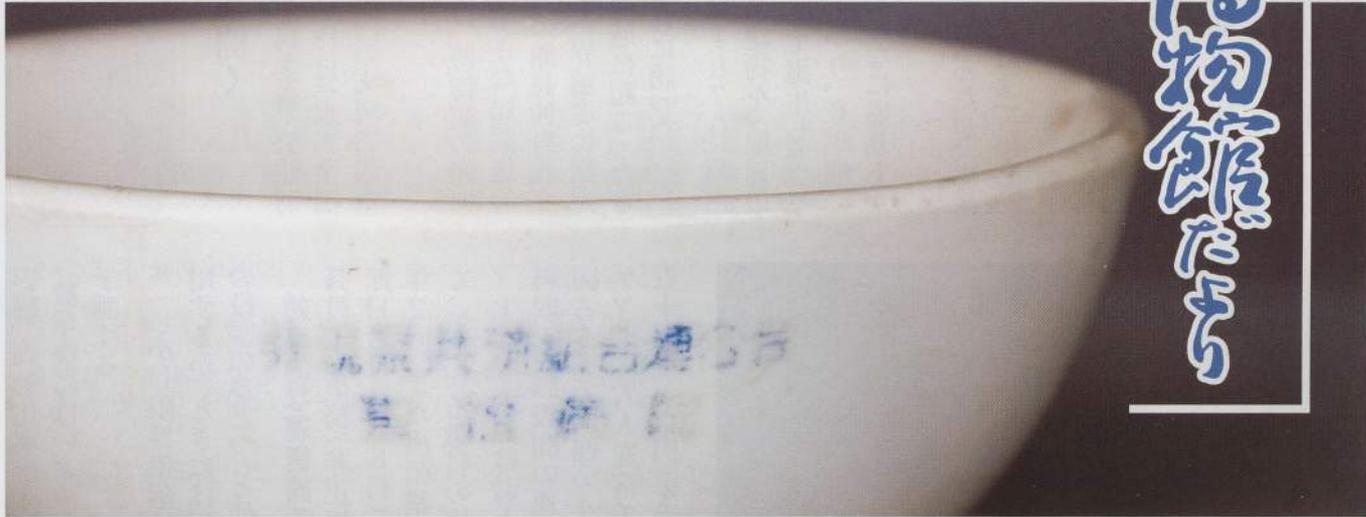




能古博物館だより



残っていた古茶碗

理事長兼館長 原 寛

『扶桑最初の禅窟』(国内最初の禅宗寺院)として有名な福岡市博多区御供所町の聖福寺は来年九月五日、初代榮西禅師(1141~1215)没後八百年の大遠諱法要を迎える。諱とは「いみな」のこと、生前の名を死後はいみなという。

榮西は留学先の宋から喫茶の文化を持ち帰り、背振山に茶の種子を撒き、『喫茶養生記』を書いた。

よく知られる仙外和尚(1750~1837)は第二三代と二五代の住職を務めた。几帳面な実務家で、言い伝えによると握り飯を2個持つて書籍蔵に終日籠もり、一心不乱に研鑽したという。現在の細川白峰老師(66歳・平成9年11月20日就任)は第二三代に当たる。

辺りに転がっていたのを拾っておいいたのです。老師は太い指で半世紀前の遺物をなでた。

敗戦後の1946年、朝鮮半島から引き揚げてきた医師と看護婦の二団が、伝手を頼って寺内に病院を開き、聖福病院を名乗った。初代院長は緒方龍。朝鮮戦争が勃発した1950年、国家公務員の非現業共済組合連合会に吸収され、『浜の町病院』の前身『聖福病院浜の町診療所』が生れる。8年後の1958年、国家公務員共済組合連合会に改名、非現業の文字は消えた。

敗戦の物不足時代に日常雑器として作られた粗末な茶碗が奇跡的に残っていたのだ。バラのデザインがいと美しい。

「こんなものが残っていますよ」。細川老師が古いご飯茶碗を取り出した。白い肌バラの花が青色で描かれており、ステムの一部が欠けている。バラの反対

側には消えかかった文字で「非現業共済組合連合会 聖福病院」とあった。「台所のその

側には消えかかった文字で「非現業共済組合連合会

聖福病院」とあった。「台所のその



原 寛

側には消えかかった文字で「非現業共済組合連合会 聖福病院」とあった。「台所のその

直径13・8センチ、高さ7センチ。どこで作られたのかわからないが、手に持つとずしりとした感触が伝わってきた。焼いた窯の燃料は薪だったのでろうか、石炭だろうか。もしかすると入院患者が使っていたのではないか。花模様は女性用か？

小さな茶碗が発信する様々な情報を楽しんだ。

△関連記事・4、5、6ページに▽

町造りも博物館の役割 学芸員は街へ出よう

全国博物館館長会議開く

第20回全国博物館館長会議(文部科学省・公益財団法人日本博物館協会主催)は6月12日(水)、全国から約400人を集め、東京・虎ノ門の文科省講堂で写真で開催された。

午後行われた事例発表のテーマは「博物館の充実方策」。規模が能古博物館に似て小さな民間施設『石見銀山資料館』(鳥根県太田市)の館長仲野義文さんが2人目に登場、石見銀山が世界遺産に指定された2007(平成19)年以降、地域に起こったさまざまな変化を豊富なデータをもとに語った。

世界遺産登録の光と影 同館は1976(昭和51)年の開館。老朽化した郡役所の建物を、地元の見光協会が譲り受け、任意団体として誕生した。やがて世界遺産登録の機運が盛り上がり、6年前に晴れて指定されたが、「指定後はそんなに盛り上がりなかった」と仲野さんは話す。

「指定の年こそ15万人の入館者があったが、以後は先細りの一途で、昨年は3万数千人にまで落ち込んだ。」

登録をきっかけにハコモノ(市営の大規模施設)が出来て競合するようになったほか、観光客の関心が年々変化して、約60カ所ある廃跡跡見学へとシフトしたのが原因だという。観光客の総数自体も最盛期の80万人が50万人に落ち込んだ。

限界集落の再生 さらに仲野さんが指摘したのは、いわゆる世界遺産ゾーン内の人口減と高齢化の

影響。高齢化率がすでに50%を超えた集落もあり、「数年後にはいくつかの集落がなくなるだろう」と予測する。

「しかし限界集落にあって文化財をどのように利用するか。ときには新たな町造りを。それが博物館の役割のひとつ」と仲野さんは熱く語った。

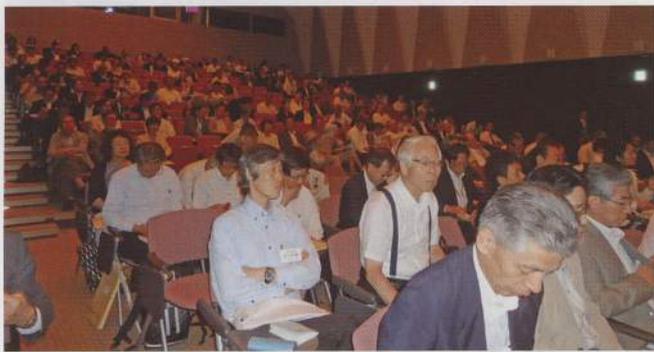
効率的な運営誇る 同館の職員数は館長1、学芸員1、事務(非正規)1、非常勤1。それでいて開館日数は358日(年末年始のみ休館)。企画展は年2回。また出張講座の古文書購読会を月4回開く。気になる職員の休日消化には言及しなかった。

主な収入源はおとな500円、小人200円の入場料収入。施設間の連携と来訪者の利便性の向上を図ろうと、関連の4施設で2日間使える「共通チケット」(大人通常千五百円を千円、同ことも五百五十円を三百円)を発行する。

「地元に残っているモノを展示しているだけ」と仲野さんは謙遜気味に話したが、「37年間、入館収入だけで・・・」と胸を張るシーンもあった。

因みに同館の理事長は義肢製作で有名な中村ブレイス(株)社長の中村敏郎氏。後援メンバーとして個人会員10名、団体1を擁する。

会議の最後を飾った



パネルディスカッションは「活性化に必要な館長の役割」のテーマで行われた。全国各地の館長、学芸員から選ばれたパネリスト4人が登場して、「館長はコンダクター」、「異業種の人材登用」など交々語ったが、意表を突かれたのは青森県立美術館の女性館長鷹山ひばりさんの発言だった。

学芸員の仕事ぶりを無責任だと断じ、「出張報告書さえ出さない」と一刀両断。「企画展の調査結果を訊ねると、多額の出張旅費を使いながら、実現の見通しが立たないと平気で言う」と嘆いた。同館の年間予算は8億円だという。これには場内からため息が漏れた。

3年前に知事に乞われて就任したという鷹山さんは「私は昼食を市内の飲食店を回って食べる。食事後、展覧会のポスターを店内に掲示して欲しいと依頼する。店主に出品画家の生い立ちや性癖、生き様を話すと、前売り券が売れることもある」と、率先遂行の姿勢を強調。1回の企画展で五千枚のポスターを張ると言い切った。

その上で「学芸員であっても街に出て、営業をすべきだ」ときっぱり。「営業の秘訣を話し出すと1時間あっても足りないので今回は遠慮する」と会場の笑いを誘った。(常務理事兼副館長 西牟田耕治)

「学芸員は雑芸員に」これは昨年の館長会議で基調講演をした東京都写真美術館の館長福原義春さん(株)資生堂名誉会長が「いみじくも語った一言だ。」

同館は予算を半分に削られながら、人手不足をボランティアで補うなどして、入館者を倍増させた。

「たとえ小さくても輝くような、市民に期待される施設を目指そう」。1年前の福原さんの明快なメッセージが蘇った。

著者に聞く

『亀井南冥小伝』(花乱社刊)を著した河村敬一さん

亀井南冥の人生に学ぼう



福岡市立福岡翔高校のベテラン教諭河村敬一さん(写真・61歳)が『亀井南冥小伝』(花乱社刊・定価1,700円+税)を世に問うた。河村さんの専門は17〜18世紀の西洋思想史。

学校では何を教えていますか。

昔の社会科学です。いまは地理歴史科と公民科に分かれています。公民科を中心に教えています。公民科は倫理、政治経済がテーマで小泉元首相が唱えた構造改革や戦後日本の平和主義も取り上げます。日本はドイツと違って戦争責任をあいまいにしたままですが、そのあたりを教室で話しても生徒から質問は出ません。戦争を知らない平成生まれですから無理ありませんが。

亀井南冥をどこで。

私は福岡市西区の西新町育ちなので、今川橋の浄満寺の門前に建つ、「亀井南冥、昭陽両先生墓所」と刻まれた大きな石碑を見て育ちました。授業(倫理)では江戸時代の儒学を教えますから、そこで南冥、昭陽の人となりを知り、すぐに能古博物館の前の理事長で館長を兼ねた故庄野寿人さんの著書を読みました。庄野さんは旧制福岡商業(福岡高校の前身)の出身で、亀井一門の顕彰に尽くされた方です。福岡教育センターで行われた「先賢に学ぶ」と題した講演を聴いたこともありました。

南冥はどんな人物ですか。

医者であり儒学者。齒に衣着せず藩に意見を言える人だったのではないのでしょうか。政事即学問、学問即政事、という感じで、藩主に直言しています。世襲で禄を継がない下級武士は勉強しないと出世は覚束ないと説いてもいます。南冥が祭首(館長)を務めた福岡藩の西の学問所「甘棠館」につながる考えです。それと対照的なのが東の学問所「修猷館」です。

著書の「はしがき」に『南冥に仮託して自らの「あり方生き方」を探し求めてみてはどうだろうか』とありますね。

そこにも書きましたが、南冥については研究論文は多いが彼の人生を一般的に取り上げた本は少ない。文献をもとに彼の生涯を概観してみたいと思います。現在の能古博物館の前身である秋月の亀陽文庫を訪ねて、ますますその必要性を感じました。南冥の晩年は不遇と言えなくもないが、彼の歩んだ生涯は、人として生まれ、死する中で、「人間としてのあり方生き方」を考える素材を、我々に与えてくれていると思います。



館への便り

牛島龍介さんの冒険ルポを読んで

196、70年代に小さなヨットで太平洋単独往復航海と世界一周航海の快挙をやってのけた牛島龍介さん
写真の著書「犬と私の太平洋」、「水平線の少年」(いずれも朝日新聞社刊・本館所蔵)を読んだ福岡市東区に住むKTさんから次のような読後の感想が届いた。



「陸での旅行は随分してきましたが、海に関してはまったくサッパリわからない世界でした。こんなにも正直に書き記された牛島さんの著書を読んで、その厳しさが伝わりました。もつともつと若い時にこの本を読んでいたら、違った旅をしたかも知れないと思いました。きれいなことを綴った旅行記は自分にとってランク外ですが、間違いなくこの本は上位に迫る良い本でした。有難うございました。」

当館は福岡市出身の牛島さんの大航海を「博多湾物語」の中で取り上げ、豊富な写真や航海日誌、航海機器、著書など多数を展示。著書の貸し出しにも応じている。

ロシナンテスの支援再開

おなじみの「ワンコイン募金」で

東日本大震災から2年8ヶ月余り。能古博物館の「友の会」有志はNPO法人「ロシナンテス」(川原尚行理事長・事務局北九州市)の支援活動を再開する。

手始めは来年2月22日福岡市で開催される「日野原重明講演会」(新老人の会福岡支部主催)会場のエルガラホール(福岡市・天神)に募金箱を置き、有志が「ワンコイン募金」を呼びかける。

(注)ワンコイン募金＝500円玉1、2枚程度の金額を目標に幅広く協力してもらおう。これまでに約200万円を集め「ロシナンテス」に贈った。

▼川原理事長に第21回福岡県文化賞 授賞式は10月30日福岡市内で行われ、川原理事長は社会部門で受賞した。同部門の第1回受賞者は嘉穂劇場代表の伊藤英子さん。式後、天神のレストランで和やかに受賞祝賀の会が開かれ、スーダンの関係者＝写真(左端は川原理事長)＝も列席した。

☆

このほか同市中央区舞鶴から長浜に移転した浜の町病院の物語、緒方龍ありて『浜の町病院』生い立ちの姿かたち(西牟田耕治著・原寛監修)の売り上げの一部をロシナンテスに寄付する支援活動も行っている。

緒方龍は旧制中学修猷館、五高、京都帝大医学部卒。著名な政治家でジャーナリストの緒方竹虎は兄に当たる。敗戦時は朝鮮半島・清津の日赤病院長を務めていた。博多港に引き揚げ、名刹「聖福寺」内に病院を設け、これが後に浜の町病院になる。支援活動の詳細は電話092(674)4633(西牟田方)まで。



出版物の割引き頒布

本館では次の2冊の関連書籍を頒布致します。筆者から「館の運営に役立てて欲しい」と寄贈されたもので、割安な価格になっています。

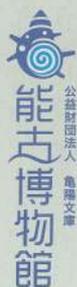
一、『亀井南冥小伝』(河村敬一著・花乱社刊・定価1,700円+税)を1,300円で。

二、緒方龍ありて『浜の町病院』生い立ちの姿かたち(西牟田耕治著、原寛監修・梓書房刊・定価1,500円・税込み)を1,000円で。

▼ご購入をご希望の方は同封の振替用紙を使って代金をお送り願います。

▼入金を確認した上で本を郵送致します。冊数に限りがあり、ご希望に添えない場合があります。

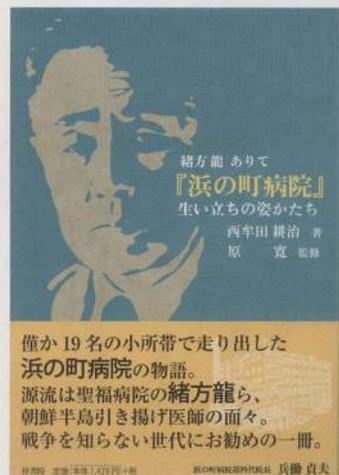
▼入金はすべて当館への寄付と致します。



緒方龍ありて『浜の町病院』生い立ちの姿かたち

西牟田耕治著

この一冊



福岡市の中核病院の一つで、1951年に開業した「浜の町病院」。10月に慣れ親しんだ同市天神地区から長浜地区に移転したのを機に、同病院のルーツをたどった一冊だ。

戦後、朝鮮半島から博多港に戻った医師の緒方龍は、街にあふれる引き揚げ者のための診療所を同市博多区の聖福寺に設ける。その後、公務員対象の病院として浜の町病院が独立した経緯について資料をもとに紹介している。当時の関係者らのインタビューからは戦後の混乱期を生きた人々の様子が垣間見え、興味深い。

梓書院(☎092・643・7075)発行。1429円(税別)

以心伝心

いしんでんしん

・孔子廟を利用しませんか

○：当館には国内に数少ない「孔子廟」¹ 写真下²がある。中国古代の聖人孔子を祀る孔子廟は東京・湯島の聖堂

や佐賀県多久市の聖廟など全国に数カ所あるのみ。つい最近、多久聖廟で行われた「釈菜」(孔子に杏、栗、筍、芹、飯、餅、雉肉、甘酒を供える典礼)には多くの市民が参加した。雅楽の演奏もある厳かな祭りだった。中国では孔子の論語を再評価する動きがあるとか。我が「孔子廟」の



利用方法はないものか。付近には孔子ゆかりの樹齢20年を超える楷(カイ)の木や能古焼きの古窯跡、万葉碑もある。

・「サイエンスカフェ」やりませんか

○：全国の博物館で近年増えているのが「サイエンスカフェ」。堅苦しいイメージを払拭し、若者に親しんでもらうと、ギアチェンジしている。その極意を全国博物館長研修(10月9日から3日間・東京)で聞いた。

簡単にまとめると――①おしゃべりな司会役とファシリテーター(助っ人)が重要。井戸端会議感覚でやる。②顔が見える30人以下の小さな集まりがいい。スライドは使わず途中にリラククス

タイムを設ける。③館が主催しなくてもかまわない、館の外でやるのもいい。④ボランティアの参加が肝要。⑤参加費は500円程度。⑥夜の博物館、お月見などもいい。

当館は博多湾内に立地し、館庭には渡り鳥の鷹柱を詠んだ句碑がある。また島内産の貝類標本、鉱石標本を収集、展示している。これらを利用して「箱(館)を出て街に出よう！」(研修資料からの引用)を実現出来ないか。どなたかご一緒しませんか。

・旗振り役ヤーイ

○：青森市の「みちのく北方漁船博物館」では中高年のボランティアが体験コーナーを任せ、子どもの工作を手伝ったり、ロープワークを教えたりしている¹写真左²。木材の切れ端を利用した小船の工作キットの売れ行きは上々だ。能古島ならさしづめ炭焼き体験とか夏みかんのジャム作りだろうか。島をまとめる旗振り役はいませんか。

能古島一周ウォークに800人

館のサービスは空振り

第3回能古島一周ウォーキング大会(主催、福岡市郵便局長協会)は11月9日(土)、絶好のウォーキング日和のもと約800人が参加して開かれ、ほぼ全員が完歩した。

浜崎グラウンドを出発して反時計回りに島を一周、同グラウンドに戻る約8キロのコース。前半はゆるい上り、後半は穏やかな下りで、要所に立つ主催者メンバーが「お疲れ様」と声を掛けて誘導し、中間地点のアイランドパークはトイレを無料開放した。

ゴールした参加者には島特産の「能古うどん」と翼福祉作業所特製の「マーマレードクッキー」がプレゼントされ、豪華賞品が当たる抽選もあった。



家族連れが目立ち、老若の女性が多かった。持参の弁当を浜辺で広げて完歩の満足感に浸り、島内の店が仮設のテントを設けて即売した「いもの天ぷら」、「鳥のから揚げ」、「よもぎ餅」などを買い求めた。

能古博物館では主催者の好意でPRのチラシを事前に郵送配布した。特典として「割引き入館料200円」と、出版されたばかりの海外引き揚げ関連本「緒方龍ありて『浜の町病院』生い立ちの姿かたち」30冊を用意、「無料配布」するサービスを打ち出したが、入館者増にはつながらなかった。



大台の300人に迫る

友の会員の伸び順調

お陰様で友の会の会員が順調に増えている。積極的な勧誘が功を奏し、この3ヶ月間で34人増えた。11月末現在の会員数277人。大台の300人が目前に迫った。男女の内訳は男性159人(57%)に対し女性118人(43%)。福岡県内が圧倒的に多いが、東京、鹿児島、大分在住の会員もいる。会員歴20年以上の方が4人。原館長は「友の会は最大の支持母体。他のもつと規模が大きな博物館でもこれだけの会員数は珍しいと思う。有り難いことです。皆様の声を生かしながら運営の充実を図りたい」と話した。

また今回は「寄付金」が目立って増えた。これは本館の関係者が書いた出版物への応援メッセージ。戦後史の一断面をとらえた「緒方龍ありて『浜の町病院』生い立ちの姿かたち」(西牟田耕治著・原寛監修・梓書院刊)の献呈に伴うものである。

▽新入会員(敬称略)

秋山峻、有吉通泰、合瀬武久、岩尾通宏、大塚健治郎、鬼崎雅子、釜我敏子、木村忠夫、熊谷達彦、小川和子、小倉智文、小坪美代子、坂田さつ紀、坂田慶二、柴田浩一、田川義幸、田中善八、寺岡直彦、中村保夫、野口土朗、原順子、原田一男、林蓉子、林宏文、馬場浩太、春野政虎、副島広巳、福元孝三郎、松尾真典、水崎雄文、森東洋彦、山家肇、山下謙、山田朋信

▽特別寄付金(敬称略)

有吉いづみ、出光芳秀、出光豊、宇都宮邦子、染岡すみ子、辻野一男、豊田富美子、原裕介、古川毅、山本千恵子 10人・計5万5千600円

(注)このほか井本敏明氏から2万円の一一般寄付がありました。

挽回ならず通し開館も不振

入館者の減少続く 原因は猛暑

年末に当たり今年度10月までの月別入館者数をまとめた。棒グラフが示すように6月を除くと不振が目立つ。7月からの夏季3ヶ月間の落ち込みが痛い。7月は初めて100人を割り込んだ。

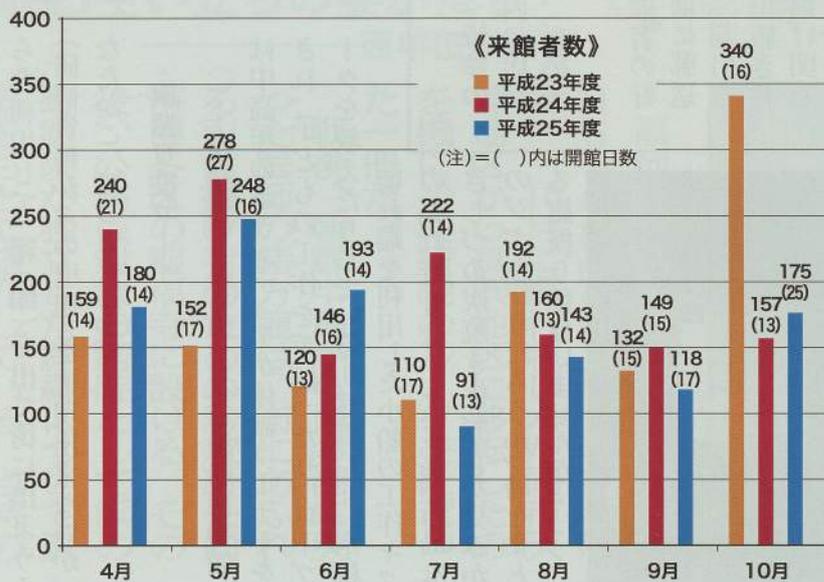
今年梅雨が例年より10日早く明け、いきなり猛暑が始まった。福岡市は観測史上初の気温38度越えを記録。猛暑日(35度以上)が17日間続いた。夏季3ヶ月間の入館者は前2年に比べ3割以上減った。反面、海水浴客を運んだ市営渡船はわずかながら増加したという。

挽回をはかるべく9月27日から1ヶ月間、月々木曜日の平常日も開館に踏み切り、ほぼ休み返上でオープンした。しかし台風の相次ぐ襲来(24、26、27号)で渡船が2度欠航するなど、秋の行楽日和を当て込んだ作戦は実らなかった。因みにこの7ヶ月間の入館者数と開館日数は次の通り。

▼平成23年度 入館者数1,205人(開館日数106日) ▼平成24年度 1,352人(119日) ▼平成25年度 1,148人(113日)

このまま推移すれば年度末の数字は近年になり厳しいものになりそうだ。

黒田康介理事(総務担当)の話 天候には勝てなかった。来年度は亀井南冥没後200年を迎える。企画展を増やし入館料の金額を再検討するなど、自助努力を図りたい。



主なグループ来館者(平成25年8月~10月)

▽8月16日(金)福岡のボイスカート(小学校高学年)中学生の2班)8人
▽9月10日(火)旬会「青峰会」6人(海の部屋利用)
▽9月28日(土)絵画教室の皆さん4人
▽10月10日(木)亀陽文庫創立者真藤慎太郎氏の関係者10人
▽11月23日(土)研修室で「光円俳句会」30人

能古博物館協賛ご寄附及び友の会(継続・新規)会員

(平成25年11月現在)

協賛ご寄附 (法人)

- ・医療法人 笠松会 有吉病院
- ・税理士法人エム・エイ・シー
- ・エムサービス(株)
- ・医療法人社団江頭会 さくら病院
- ・(株)サンコー
- ・(株)CDS
- ・(株)筑紫不動産
- ・西日本シティ銀行
- ・医療法人 西福岡病院
- ・医療法人 原三信病院
- ・(医)博仁(会福岡リハビリテーション)シオン病院
- ・(株)ホームケアサービス
- ・(株)メディカルアシスト青葉
- ・医療法人 恵光会 原病院

(個人)

- 出光芳秀 上崎典雄 柏木重人
 - 久我篁子 島塚祐弘 原敬二郎
 - 舟越茂義 増田康治 翠川文字
 - 亀井准輔 石野智恵子 鈴木友和
 - 毛戸彰 井本敏明 仁保喜之
- (敬称略・順不同)

協賛ご寄附のご案内

- 個人1口二万円×口数
- 法人1口三万円×口数

税制上の「寄附金控除」の対象となります。

納入方法

- 1、郵便振替 017300960970
- 公益財団法人 亀陽文庫
- 2、銀行振込
- 西日本シティ銀行 土井支店
- 普通 0551459
- 公益財団法人 亀陽文庫

友の会会員

注1 敬称略・五十音順
・数字は会員歴(年数)

宇都宮邦子	内海眞記子	小坂セツ	高山博光	三苦進
内山節子	梅埜國夫	児玉玲子	武末照男	南アサノ
牛島弘子	浦田裕	小堀瑠伊子	田坂大蔵	三野原勝子
上原孝正	江口正一	小宮作	田里朝男	簗原聡
上田博	江崎小二郎	小柳定子	田代健治	三宅碧子
上田恒久	大石由美子	小山儀一郎	田代朝子	宮崎美津子
上田幸則	大石恭仁子	小山京子	多々羅吉臣	村岡健次
上田隆	大木茂	小山富夫	立石京	杜あとも
上原英子	大島照子	境野俊男	田中啓介	森悦次郎
黒田正隆	大野彩子	神和美	田中丸善彦	森純子
黒田明子	大庭浩司	坂梨喬	辻野一男	森正敏
甲本達也	大庭静枝	櫻木榮紀	徳永武生・和子	森本繁
古閑道子	岡部九州生	佐々木昭司	豊永靖雄	安井久喬
	岡本顕實	佐々木三三子	豊田富美子	安恒忠男
	荻原美枝子	佐々木ミノエ	豊田文彦	安松淳祐
	小野崎徹	佐藤郁男	永岡喜代太	安保博史
	柏木和子	塩田康文	永淵郁子	安野鈴子
	香月悦子	執行敏彦	中塩謙美子	山川美也子
	上治正子	地頭所ミエ子	中島謙吾	山口勝久
	嘉村正子	篠田栄太郎	中野怡子	山崎博司
	川田啓治	篠原ヨシ子	鍋島典子	山田博子
	河野道博	柴戸次雄	成富耕志	山本千恵子
	河邊眞二	白木太郎	成富睦夫	山本留美
	河邊鐵夫	進藤康子	西川晴己	結城威
	河村敬一	杉謙一	西田靖子	吉倉禎子
	木血敦代	杉原正毅	西山紀子	吉田登美代
	岸川伸子	関師祐子	西山奈々	吉田泰久
	北原君子	住本直之	野崎逸郎	吉田洋一
	吉瀬宗雄	関賢司	野村浩一	吉松須和子
	岩城元	関敏巳	波多野直之	吉安蓉子
	岩本博秀	瀬戸美都子	波多野洋子	若杉佳昭
	上瀧玲子	高木いつみ	八田明美	脇山玉枝
	上田幸則	高嶋英介	服部たか子	和田宏子
	上田恒久	高嶋季雄	花田ひろ子	渡辺彰
	上原孝正	高根襄	林昌九楼	
	上原英子	高根俊光	林由紀子	
	黒田正隆	高根襄	林昌九楼	
	黒田明子	高根襄	林昌九楼	
	甲本達也	高根襄	林昌九楼	
	古閑道子	高根襄	林昌九楼	

友の会入会のご案内

- 友の会会費 1口 三千元 (何口でも可)
- ※会費の納入方法 郵便振替 017300960970 公益財団法人 亀陽文庫

- (1) 振込み料は当館にて負担致します。
- (2) 受け付け次第、会員証とコーヒークケットをお送り致します。
- (3) 会費有効期限は1年と致します。
- (4) 入館時に会員証(同伴1名まで有効)を受付けにご提示下さい。ご入館は随意で回数制限はなく無料です。
- (5) コーヒークケットで挽きたての香り豊かなコーヒースービス致します。
- (6) 「能古博物館だより」を年数回お送り致します。また、会員の皆様のご寄稿、ご意見は同誌に掲載致します。但し諸事情で掲載を見送る場合がございます。予めご了承下さい。
- (7) 館が企画する催物のご案内と参加費の割引を致します。

(備考) 直近の新人会員のお名前が6ページに掲載されています。



アクセス

西鉄バス

- ・JR博多駅 博多口正面Aのりば
300、301、302番 能古渡船場行: 約50分
- ・天神 三越前1Aのりば
300、301、302番 能古渡船場行: 約30分

市営地下鉄:「姪浜駅」下車 乗り継ぎ

- ・西鉄バス姪浜駅 北口
98番 能古渡船場行: 約12分
- ・タクシー: 約 8分

市営渡船(フェリー)

- ・姪浜-能古島間: 約10分

能古島渡船場より博物館まで

- ・徒歩: 約10分
- ・アイランドパーク行き西鉄バス停
「能古学校前」下車、徒歩(下り坂)約3分

問合せ

姪浜旅客待合所 TEL 092-881-8709
能古旅客待合所 TEL 092-881-0900

開館日/毎週 金曜・土曜・日曜と祝日

※団体の場合は休館日にかかわらずご相談ください

(注) 冬季(12月~1月)は、年末年始及び展示物入れ替えなどで長期休館を原則としています。御用の場合は事前にお問い合わせ願います。

開館時間/10:00~17:00(入館16:30まで)

入館料/大人400円・高校生以下無料
※団体20名以上2割引

	能古 発	姪の浜 発
1	◎05:00	◎05:15
2	06:00	06:15
3	06:30	06:45
4	07:00	07:15
5	07:30	07:45
6	08:00	08:15
7	09:00	09:15
8	10:00	10:15
9	11:00	11:15
10	12:00	12:15
11	13:00	13:15
12	14:00	14:15
13	15:00	15:15
14	16:00	16:15
15	17:00	17:15
16	17:30	17:45
17	18:00	18:15
18	18:30	18:45
19	19:30	19:45
20	20:15	20:30
21	20:45	21:00
22	21:45	22:00
23	◎22:45	◎23:00

◎印は日祝日運休 2013年11月現在

渡船場からアイランドパークへの西鉄バス時刻表(平成25年11月25日現在)

渡船場前発(能古学校前まで約2分)

時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	18
平日	57	48	45	30	30	55	35	35	35	45	
土曜日	57	48	45	30	30	55	35	35	35	45	
日・祝日	57	48	45	30	30	55	35	35	35	45	00

アイランドパーク発(能古学校前まで約8分)

時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
平日	23	20	3	13	28	18	18	18	18	28	
土曜日	23	20	3	13	28	18	18	18	18	28	
日・祝日	23	20	3	13	28	18	18	18	18	28	38

※ 繁忙期はバス、渡船とも臨時便が運行されます。



公益財団法人 能古文庫

能古博物館

〒819-0012 福岡市西区能古522-2 TEL 092-883-2887 FAX 092-883-2881
http://nokonoshima-museum.or.jp E-mail info@nokonoshima-museum.or.jp